

各委員から事前にいただいたご意見等について

※課題と感じられていることや、各団体での独自の取組の紹介などを寄せていただきました。

| 委員名 | ご意見等 |
|-------|---|
| 植山 委員 | <p>子育て支援におけるシニア世代の活用</p> <p>【2 地域における子育ての支援】 女性の就業率が高まっている時代において、地域における子育ての支援は必須になってくると思われます。そこで、仕事を定年退職して自由になる時間をもっているシニア世代の人たちにボランティア、あるいは収入源として子育て支援を行えるようなシステムを作ってはいかがでしょうか。（たとえば、放課後に地区の公民館の一室を無料開放して、シニア世代の人が読み聞かせをしたり、宿題を手伝ったり、おやつ作りなどを行うなど）</p> <p>ベビーシッター制度を広める</p> <p>【3 子育ても仕事もしやすい環境づくり】 アメリカ合衆国では州により多少異なりますが、13歳未満の児童を一人で留守番させてはならない、一人で公園に遊びに行かせてはならないなど、子どもを守るためのきめ細かな法律があります。そこで、夫婦そろって外出する時間帯はベビーシッターを雇うことになり、通常は大学生などがアルバイトとしてベビーシッターを行います。 我が国でもベビーシッターがもうすこし広まってもよいのではないかと思います。そうすると育児中の母親たちが仕事を継続したり、何かを学ぶことが可能になります。ベビーシッターを行おうとする人に簡易講習制度を設けて子どもとの関わり方などを学んでもらい、登録性にすれば、事故も未然に防げるのではないのでしょうか。</p> <p>幼稚園・保育園・学校行事をできるだけ日曜日に</p> <p>【1 子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり】 入学式・卒業式・運動会・発表会などの行事はほとんどが平日、あるいは土曜日に開催されるため、職種によっては行事にほとんど参加できない父親がいます。大分県ではこのような子どもの成長の見せ場となるような行事を日曜日に行うことを推進すれば、父親がもっと子育てや子どもの成長、学校教育などに興味をもち、参加できるのではないのでしょうか。子育てを身近に感じることは、第二子の出産へとつながることと思います。</p> <p>すべての人が収入を得られるように</p> <p>【4 きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援】 きめこまかな対応が必要な子どもでも、将来何らかの仕事に就いて一定の収入を得られる道を保証する必要があると思います。</p> |

| 委員名 | ご意見等 |
|-------|---|
| 大塚 委員 | <p>協働のまちづくり、地域を支える人材とその供給、「専業主婦」</p> <p>【2 地域における子育ての支援】</p> <p>協働のまちづくりが広がり地域社会の役割が増える一方、青年団や婦人部などは次々に解散し地域活動を経験したことが無い世代が増えています。</p> <p>自治会等地域活動へ無関心・消極的・懐疑的な人が多い現状を見ると、数年後には、「子育てを支える地域」そのもの・地域活動の意義を理解し動く人材がいなくなるのではないかと感じています。</p> <p>そこで、専業主婦と呼ばれている方をはじめ、地域を生活の拠点とし地域で1日の多くを過ごす(若年層の)方々が、地域活動に高い敷居を感じずに参加でき、奉仕を強いられず、対価(誇り、経験、報酬など)を得られるような仕組みは無いかと考えを巡らせています。</p> <p>支援を受けるだけの側ではなく、支援を提供する・デザインする側に回ること、一部の母親たちが抱える「もっと社会参加したい・経験を活かしたい・社会から孤立している気がする・子どものふるさととなる地域を良いものにしたい・1年後2年後は多忙になるので不可能だけれど今は自由がきくので何かをしたい」などの願いや悩みを昇華できれば、と考えます。</p> <p>防災教育、現住地の地理的条件を「油断材料」としない教育</p> <p>【6 子どもの生きる力をはぐくむ教育の推進】</p> <p>職や居が定まった大人に比べ、高校生以下の子ども達は就職や進学に伴い大分を離れる可能性が高くなっています。また、その転出先は、自然現象が大災害へと繋がりやすい大都市・沿岸部が大半を占めます。</p> <p>全国を俯瞰したとき、今後大災害が予想される地域や東北地方の子どもたちの多くは、災害から命を守る・いざというときの行動につながる実践的な教育をしっかりとしています。「あの人は、自分の命を守る術を教わっていた。だから、避難できた。でも私は、大分の山奥で育ったから、津波から身を守る方法なんて教わらなかった。だから、もうここでおしまいだ」などと、大人になった子どもたちに絶望してもらいたくありません。</p> <p>勿論、現在の地理的条件を踏まえて施される教育や訓練は「安全・安心な学校づくり」「今の子どもを守る」ために欠かせません。</p> <p>それに加えて、子どもたちの将来を守るためにも、実践的で真剣な防災教育が大分県に広がっていくことを強く希望しています。</p> |

| 委員名 | ご意見等 |
|-------|--|
| 大鶴 委員 | <p>孤育て、孤育ちをなくす。</p> <p>【5 結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援の推進】</p> <p>・妊娠時期からの地域の子育て支援センターとの繋がりを作る。 現在、子育て支援センター等でベビーマッサージや月齢別サークルが沢山開催されていてそれらの情報を知っている母親は、とても上手に活用しながら育児を楽しんでいると思います。</p> <p>しかし、初めての子育てで慣れない場所へ赤ちゃんを連れてのお出かけ、不特定多数のママたちの輪に入れるかどうかの不安などで、出向くきっかけをつかめない方や、子育てに追われ情報すら知らない方も沢山います。</p> <p>妊娠中は比較的余裕もあり、出産前に沢山の情報を集める時間もあります。そんな時期に、自分の住む地域の赤ちゃんを連れてお出かけできる場所（支援センター・こどもルーム）に事前に行く機会があり、職員の方、同時期に出産予定の方と知り合える機会が作れば妊娠中の不安、出産後の不安を相談する相手がいることの安心感や出産後も妊娠中に知り合った方と継続して一緒に子育てを楽しむことができたりと「孤育て」の解消につながる一つの方法となるのではないのでしょうか。</p> <p>【1 子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり】</p> <p>【3 子育ても仕事もしやすい環境づくり】</p> <p>母親にとっての子育て満足度とは、子どもと笑顔で向き合えた時間とつながっていると感じています。</p> <p>母親の心の充実度によって、外からの要因（家庭問題、子育て環境、仕事との両立）はプラスにもマイナスにも変化します。「子どもがいるからできないこと・できなくなったこと」ではなく「子どもがいるからできる事」に目を向けられる自分になるための学びの機会や、子ども同伴で楽しめる場所や機会、女性の仕事の仕方が増えることを期待します。</p> <p>【6 子どもの生きる力をはぐくむ教育の推進】</p> <p>子どもの生きる力をはぐくむために一番必要な事は、身近な大人達が楽しそうに生きている姿を見せる事だと考えます。「楽しそう」とは「らくをする」ということではなく、大変なことでも楽しみながら一生懸命に取り組む姿を見せる事だと思っています。</p> <p>未来に向かっている子どもたちに、学校の勉強も大切ですが地域の方たちの出前授業なども積極的に取り入れ『自分達の為に一生懸命になってくれている大人がいる』ということ、人とのコミュニケーションから学ぶ機会が増えることも期待します。</p> |

| 委員名 | ご意見等 |
|-------|--|
| 河野 委員 | <p>「保護者（家庭教育）の補完」</p> <p>【1 子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり】 両親の共働きや、シングルファザー、シングルマザーの家庭などの場合、子育てとの両立がなかなか難しく、子どもに目が向けられないこともあると思います。</p> <p>家族の形が多様化し、女性の社会進出も珍しくなくなっていますが、子どもにとって大事な時期にコミュニケーションの機会が少ないと多くの課題が生まれます。その課題を解消するために、ただ学童や保育園などを増設するのではなく、親も子どもをサポートする”補完の仕組み”づくりが大切だと思います。</p> <p>その際には、当事者だけでなく、幅広い意見を基に考えられることを期待します。</p> <p>「ネットワーク」「子どもの居場所」</p> <p>【2 地域における子育ての支援】 私は幼児から高校生まで幅広い世代の子ども達とのかかわりの中で、「居場所」づくりが大切だと考えました。</p> <p>現代社会の多様な変化の中で、子ども達はさまざまな悩みを抱え込みがちになっています。その子ども達が、悩みを気軽に話せたり、あるいは学習や体験のための「居場所作り」に取り組み、今夏から本格的な活動をはじめます。</p> <p>その中で、思春期や反抗期の子ども達の切実な想いを汲み取る役目を担いたいと考えていますが、悩みの解消など元気で健やかな成長のためには、家庭、学校、地域など各機関の多様な団体とのネットワークの構築、強化を求めています。</p> <p>子育て満足度日本一の実現のために、子ども達の声に耳を傾けられるよう、自分自身ができること率先して行い、よりよく導けるための体制を期待します。</p> |
| 佐藤 委員 | <p>チーム学校、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー</p> <p>「チーム学校」に関連して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの勤務ぶりについては、市教委（県教委）としてどのように評価し、他の専門職も含めた学校への配置はどのような方針で考えているのか？</p> <p>食育、米粉料理、一村一品</p> <p>大分市は米粉料理、大分県は一村一品に力を入れているので、これらの料理などを使って、家庭科、社会科、総合的な学習などで食育を推進してほしい。</p> |

| 委員名 | ご意見等 |
|-------|---|
| | <p>障害者差別解消法、合理的配慮</p> <p>平成28年4月から「障害者差別解消法」が施行され、障害のある方への合理的配慮が提供されなければならないが、それに向けての市内（県内）幼稚園、小中学校、高等学校、特別支援学校での準備状況はどうなっているのか？ もっと積極的に理解啓発も含めて推進してほしい。</p> |
| 堤 委員 | <p>寄り添い繋ぐ子育て支援</p> <p>【2 地域における子育ての支援】 民生委員・児童委員（主任児童委員）としての主な取り組み ○地域の親子が集う場として、子育てサロンを開設し、運営している。 ＜問題点＞市町村により活動費の補助額に格差があり、運営が難しいサロンもある。 ○「こんにちは赤ちゃん」訪問活動の取り組み 4ヶ月までの赤ちゃんのいる家庭を訪れ、母親の様子や子育ての悩みなどを聞き、保健師へとつなぐ。</p> <p>【3 子育ても仕事もしやすい環境づくり】 6月14日付けの大分合同新聞記事に「共働きでも養子を」というテーマで三重県知事鈴木英敬さんの取り組みがありました。里親制度の先進県であります大分でも、三重と同じように「特別養子縁組」で子どもを迎える際、育休がとれるような制度を考えて欲しい。国の制度では育休が認められていないとのこと。</p> |
| 橋本 委員 | <p>心身ともに健康に</p> <p>【3 子育ても仕事もしやすい環境づくり】 事業主も働く人も心身が健康であれば働きやすい、働きたくなる環境となります。</p> |
| 藤田 委員 | <p>【3 子育ても仕事もしやすい環境づくり】 中央会では、平成18年度より大分県の受託事業である「おおいた子育てサポート企業」の認証取得の推進を組合及び組合員企業を中心に行っている。9年にわたり実施してきたこともあり、一定の成果はあがっているものの、他方では「主旨は理解できるが、現状は難しい。」と言った意見も多く聞いている。また、厳しい経営環境を背景とするサービス残業、有休未取得等も聞いている。</p> |

| 委員名 | ご意見等 |
|-------|---|
| 藤原剛委員 | <p>父親の会が継続して活動出来る為の支援について</p> <p>【3 子育ても仕事もしやすい環境づくり】 私は、「おおいたおやじネットワーク」という団体で、父親の会の為の勉強会（おやじ座談会）等の開催のお手伝いさせていただいています。 父親の会に関わりだして9年になりますが、ここ数年よく耳にするのがおやじ会の世代交代がうまくいっていない会があるという事です。 父親の会には二種類あり、一つは有志が集まって作った会です。もう一つはPTAの組織として動員される会です。 問題なのは有志の会の方で、活動に熱心なお父さん達がいる間は良いのですが、その人達が卒業していなくなってしまうと後を引き継いでくれる人が見つからずに運営に支障をきたすことです。 現在活動中の会を継続していく為の支援が必要であると考えます。（更なる休暇を取り易くする施策等）</p> <p>保護者同士が気軽に話せる場の必要性について</p> <p>【4 きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援】 私は大分県教育委員会の家庭教育支援推進員をしています。 今までのべ7件の支援を行ってきました。具体的には小中学校の保護者対象のワークショップを行っています。 テーマは「子どもに腹が立った時どうするか」等の身近な困り事等です。 参加してくれた保護者の方からよく耳にするのが、「みんな同じ事を考えている事を初めて知った」ということです。 これは裏返すと保護者同士が気軽に話すことが出来る場がないことということです。PTA懇談会等で家庭教育支援のワークショップをもっと積極的に取り入れる必要があると考えます。</p> |
| 松田 委員 | <p>【1 子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり】 「子どもは“社会の子”として共に育む」 社会的養護の下で暮らし、18歳で巣立つ子どもの育成と自立支援、アフターケア。 障がいのある子への理解。障がいのある子を隔離しない保育、教育。</p> <p>【5 結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援の推進】 「親の背を見て“子”は育つ」「育てたように子は育つ」というが、『育てられたようにしか育てられない』、育児放棄、虐待（ネグレクト、精神的、身体的…）などの悪い連鎖を止める為の早期教育の必要性。</p> |

| 委員名 | ご意見等 |
|-------|--|
| 村田 委員 | <p>【2 地域における子育ての支援】 大分県は行政挙げての「子育て満足度日本一」を目指し、頑張っている県と思います。すき間のない支援を一緒に考えていきたいと思っています。是非、民間の声をおききください。</p> <p>【6 子どもの生きる力をはぐくむ教育の推進】 学校現場では、発達の気になる子どもへの対応に苦慮されています。福祉部局と教育のネットワーク構築が必須です。こどもや家庭支援の積極的な関わりを願っています。</p> |
| 渡部 委員 | <p>【3 子育ても仕事もしやすい環境づくり】 【5 結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援の推進】 ワークライフバランスの意識は広がっていると思いますが、実際の会社の中では、その実現にまだまだハードルがあるように感じています。 一方で、周囲の女性からは「このままの働き方で結婚、子育てができるか不安」という声が多く、経済状況が厳しい中で自分のライフデザインが描きにくい状況が浮かびます。 安心して子育てができる社会へと進むために、男性も女性も働きやすい職場環境をつくる取組みが、今後一層進むことを望んでいます。</p> |

| 基本施策 | ご意見等をいただいた委員 |
|---------------------------|------------------------------|
| 1 子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり | 植山委員、大鶴委員、河野委員 |
| 2 地域における子育て支援 | 植山委員、大塚委員、河野委員、堤委員、村田委員 |
| 3 子育ても仕事もしやすい環境づくり | 植山委員、大鶴委員、堤委員、橋本委員、藤田委員、渡部委員 |
| 4 きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援 | 植山委員 |
| 5 結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援の推進 | 大鶴委員、渡部委員 |
| 6 子どもの生きる力をはぐくむ教育の推進 | 大塚委員、大鶴委員、村田委員 |
| 7 子どもにとって安心・安全なまちづくり | |

※課題と感じられていることや、各団体での独自の取組の紹介などを寄せていただきました。

| 委員名 | ご意見等 |
|-------|---|
| 土居 委員 | <p>質の高い幼児期の教育・保育</p> <p>【2 地域における子育ての支援】 希望するすべての子どもが質の高い幼児期の教育・保育を受けることができる環境づくりが必要。</p> <p>幼児教育の無償化、幼児教育の充実</p> <p>こども保険の創設 ：現在40歳からの介護保険のように、20歳からを対象に社会全体で子どもの育ちを応援するしくみ。 ：森林環境税のような仕組みで「子ども支援税」を徴収。</p> <p>以上のように大分県独自で財源の確保を行い、少子化対策の財源として活用し、県民挙げて子育て立県を具体的にめざすことにより、「子育て満足度日本一」を実現する。 このことは、地方創生の基礎基盤となる現在の「米100俵」と考えます。</p> |